

# ちばけん公民館 スタッフニュース



## わがまちじまん!! 千葉市「寒川おはまの御浜下り」

千葉市は東京湾に面し、大きく分けると人口が集中する海浜部、その奥に農村部、それから標高90m前後の準山間部が広がっています。平成4年(1992)には全国12番目の政令指定都市となり、現在人口は約95万人です。

御浜下りは、毎年8月16日から22日まで7日間にわたって行われる「だらだら祭り」とか「太鼓祭り」「裸祭り」とも呼ぶ千葉妙見(千葉神社)の祭礼期間中の8月20日、海浜部の寒川地域の人々によって神輿を海の中に入れて禊を行うというもので、その始まりは鎌倉時代中期の天福元年(1233)に遡る大変由緒ある祭礼です。

かつての千葉妙見の祭礼は、千葉町と寒川村が一体となって行った祭礼で、千葉妙見の神輿を千葉町が仕立てた「千葉舟」と寒川村が仕立てた「結城舟」(「寒川舟」)と呼ぶ2基の大舟(舟形の山車)が送り舟となり、8月20日に寒川の町衆が担ぎ、神輿を出洲海岸から海に入れて禊を行うというものでした。2基の大舟の上ではお囃子と舞が奉納され、神事としての厳粛さと祭りとしての華やかさを備えた絢爛豪華な祭礼でした。

今日の御浜下りは、毎年8月20日、寒川地域の人々により「寒川の御浜下り」として執り行われ、かつて行っていた出洲海岸は埋め立てられたため、千葉ポートパークの人工海浜で行われています。是非、伝統を守る寒川地域の若者たちの勇壮な姿を見にいらしてはいかがでしょうか。

(写真は、「寒川の御浜下り」フォトコンテスト実行委員会」から提供を受けた平成21年度第9回目の最優秀作品です。)

千葉県公民館連絡協議会

## 平成22年度 県公連総会開催

5月27日、千葉県総合教育センターに於いて、平成22年度千葉県公民館連絡協議会総会を開催しました。県内各地から140人以上の公民館職員、関係者の出席がありました。

堀切公雄会長のあいさつの後、これまで公民館・社会教育の充実、発展にご尽力された方への功績表彰を行いました。今年度は、公民館運営審議会委員(5名)・県公連役員(1名)に感謝状を、永年勤続職員(26名)に表彰状を贈呈しました。

議事においては、まず、平成21年度の事業報告・歳入歳出決算報告と会計報告がなされました。第61回県公民館研究大会(21年11月18日/さわやかちば県民プラザ/参加者377名)や、社会教育法制定60周年記念全国公民館研修大会(21年10月15・16日/東京国際フォーラム/県内から71名参加)についての報告、また、各部会・専門



委員会の活動についての報告がありました。

続いて、平成22年度事業計画(案)・歳入歳出予算(案)について審議。県公連の重要な事業の柱である第62回県公民館研究大会(22年11月18日/君津市民文化ホール他)への取り組みや、各部会・専門委員会の活発・充実を図ること等の活動目標を提案し、各部会・専門委員会の事業計画(案)についても説明がありました。あわせて、役員欠員に伴う一部役員の改選について提案いたしました。(新役員については、別表参照)

全ての議題は原案通り可決されました。また、総会終了後、各部会・専門委員会が開催され、今年度の活動計画について協議を行いました。

財政の厳しさ等により、公民館を巡る状況は厳しさを増していますが、地域活動・学習活動への関心の高まりから、住民の公民館への期待も大きくなってきています。各役員とも、県内公民館体制充実へ寄与できるよう意欲的に活動に取り組んでまいります。引き続き、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

(県公連事務局)



## 新県公連会長よりあいさつ

### 元気な公民館活動を目指して 齋藤 忠昭 (市川市公民館センター)



今年度、堀切さんの後任として会長に就任いたしました、市川市公民館センターの齋藤と申します。

私は現在市川市のJR本八幡駅から徒歩で10分ほどにありますが市川市生涯学習センターの中の公民館センターで市内16の公民館の統括、運営に携わっております。今回千葉県全体の公民館の将来にもかかわる千葉県公民館連絡協議会の会長という役を仰せつかり、その責任の重さをひしひしと感じております。

さて、公民館を巡る今日の社会の状況には、健康、少子高齢化、国際化、情報化など様々な現代的課題が発生しています。地域の連帯感が少なくなり、地域社会における人間関係が希薄化してきているという指摘もされています。このような時代にあって公民館が果たすべき役割は大きく、地域の生涯学習活動、情報交換の居場所を作り、安心・安全で、豊かな社会生活、文化を育む場として公民館はますます有効に機能していかなければならないと考えております。今回大役を仰せつかりましたことを機会として、千葉県の各地区の生涯学習の課題と取り組みについて諸先輩のお考えを拝聴して、これからの県公連の事業に役立てていきたいと考えております。県公連がこれまで積み上げてきた実績をさらに充実させるべく頑張る所存です。また、単位公連相互のこれまでの連携をますます緊密なものとなるようにコーディネーター役を果たしたいと考えております。本年度もいくつもの事業が計画されておりますが、その事業が千葉県の生涯学習の発展に寄与できるよう、元気な公民館活動をめざして成果を上げることを念願しております。そのためには、まず皆様方のお話をいろいろ傾聴しなければならないと感じております。これから機会がありますたびに皆様方にお話をお伺いさせていただきますので、その折はどうぞよろしくをお願いいたします。

# 第62回千葉県公民館研究大会

～ひと・地域の“力”をひきだし、絆をつむぐ公民館づくりをめざして～



近年、暮らしの課題や教育力の低下、地域の人間関係の希薄化などの地域課題が山積しており、公民館への期待はますます強まっています。しかしその一方、現在の公民館をめぐる状況は混沌としており、今後の公民館の果たすべき役割やあり方が問われています。そこで、県内の公民館関係者が一堂に会し、日頃の実践をもとに研究協議を行い、学びあつななで、これからの公民館が人づくり・地域づくりの拠点として一層の公民館活動の充実・発展を図るため、公民館研究大会を開催します。

【期日】平成22年11月18日(木)

【主催】千葉県公民館連絡協議会

【会場】君津市民文化ホール(君津市三直622)

【主管】第62回千葉県公民館研究大会実行委員会

君津市小糸公民館(君津市糠田55)

君津・市原地区公連

## 第124回 主事部会研修会『公民館事業とは何か』～先輩職員の取り組みに学ぶ～

公民館の仕事で最も大きなウェイトを占める『講座』や『教室』などの主催事業ですが、住民・参加者とのかわりや、事業の企画、進め方に不安や疑問を抱きながら取り組んでいる方も多いのではないのでしょうか。今回は、公民館事業の経験豊かな講師をお迎えして、それぞれの実践・ご経験から、公民館事業への取り組みについてお話していただきます。私達が日々の仕事で悩んでいることや、公民館や職員の役割について、もう一度問い直し、大いに語り合い、考える機会にさせていただければと思います。

【期日】平成22年10月6日(水)

【会場】千葉市新宿公民館(千葉市中央区新宿2-16-14)

【講師】高瀬 義彰 氏(松戸市松戸青少年会館) 高梨 晶子 氏(浦安市日の出公民館)

佐々木 英之 氏(木更津市岩根西公民館)

## 第125回 主事部会研修会『宿泊研修会』

主事部会主催により第125回主事部会研修会『宿泊研修会』を開催します。日程は平成23年1月19日(水)～20日(木)の1泊2日で、会場は黒潮荘(鴨川市)です。テーマや内容等については、まだ企画段階のため確定していないので、今回は日程及び会場のお知らせのみとします。詳細については、後日、各地区公連事務局を通じてお送りする予定ですので、ぜひご覧ください。みなさまのご参加をお待ちしております!

### 県公連役員

【会 長】	齋藤 忠昭	市川市公民館センター
【副 会 長】	野老 正雄	千葉市小中台公民館
	伊藤 勉	木更津市中央公民館
	小島 満	栄町ふれあいプラザさかえ

### 各部会長・専門委員長・監事

【館長部会長】	小島 満	栄町ふれあいプラザさかえ
【主事部会長】	鈴木 和代	木更津市西清川公民館
【研究委員長】	山下要一郎	木更津市中郷公民館
【広報委員長】	野田 政実	千葉市草野公民館
【研修委員長】	高瀬 義彰	松戸市松戸青少年会館
	米井紀代子	印西市中央公民館
	堀越 乾一	香取市佐原中央公民館
【監 事】	長谷川光政	芝山町中央公民館

### 県公連事務局

【事務局長】	高梨 晶子	浦安市日の出公民館
【次 長】	奥山 睦義	市川市市川駅南公民館
【次 長】	中村 亮彦	君津市清和公民館



千 葉 市	野田 政実	千葉市草野公民館
葛 南	長島由美子	浦安市中央公民館
東 葛 飾	近藤 武	我孫子市我孫子地区公民館
印 旛	矢口 浩子	富里市中央公民館
香取・海匝	平野 悟	神崎ふれあいプラザ文化ホール
山 武	小野谷典子	山武市成東中央公民館
長 生	白井 利一	長南町中央公民館
夷 隅	中村 壮一	勝浦市公民館
安 房	杉田 修一	南房総市丸山公民館
君津・市原	岩田 和久	富津市中央公民館

# 第123回主事部会研修会開催

【学ぼう！そして考えよう！公民館のあるべき姿～公民館の理念と公民館職員の役割～】



7月28日(水)、千葉市新宿公民館にて、第123回主事部会研修会が実施されました。講師に川野佐一郎氏（日本社会教育学会理事・早稲田大学非常勤講師・元相模原市職員）をお招きし、『学ぼう！そして考えよう！公民館のあるべき姿～公民館の理念と公民館職員の役割～』をテーマにご講演いただきました。

講演の初めに、『学びとは知識の伝承・伝達であるが、その方法として明治以来の学校教育のような承り型学習の時代は終わった。これからは民主主義的な参加型学習が中心になる。』と発せられました。そして、次の項目を中心として講演が始まりました。

1. ホンネで語りましょう
2. 生涯学習における実践的なまちづくり
3. 社会教育実践と学びの意味を考える
4. 地域ガバナンスとは
5. 私からあなたへ
6. 夢は何かと聞かれたら

公民館の仕事についてホンネで語っていますか？という講師の問いかけに対しては、『専門職として発令されているが、日常の雑務に追われてしまう。専門職としての待遇をして欲しい。』『これから何十年も公務員としてやっていくことを考えると不安。いつかは転職を考えてみたい。』『仕事は嫌いではないが、毎日充実感がない。先輩のようにバリバリやってみたい。』『社会教育と言っても範囲が広すぎて掴みどころがない。何から手を付けばいいか分からない。』『地域の方々が学びを通じて交流している。人々が変わっていくと共に、私も変われているという実感がある。』などの意見がありました。匿名のアンケート形式だったので、これらは正に現場職員のホンネの意見であったと思います。

また、公民館と地域の関係を意識して考えると、必ず福祉の課題が出てくる。その例として、知的障害児童の放課後の過ごし方の問題や、生活保護世帯への勉強などを含めたケアの問題。老老介護に絡んだ世帯状況の把握や地域の見守り体制の構

築など様々な課題が挙げられ、公民館はこれら地域の情報を汲み取る必要があるとお話されました。

それと共に、公民館は地域コミュニティの合意形成を図らなければならないので、職員は少なくともワークショップの手法くらいは身につけておかなければならない。地域のルールを住民自らが考え、地域の組織化を図る手法が必要になる。

これまでの社会教育は市民が喜ぶサービスをしてあげていれば良かったが、これからは違う。まちづくりのきっかけを作るのは公民館であり、従来の縦型行政ではなく、地域や企業を含めた横型のガバナンスが重要になる。そして、行政も各部署の担当分野だけでなく、福祉や都市計画、環境政策などと絡めた視点からの施策を行わなければならない。そのためにも、地域のリアルな課題を捉え、市民と共に学習する中で、これからは『何を学んだのか』という技術的な面よりも『どのように学んだのか』という実践的な面が重要になってくる。社会教育主事の扱いについても、地域におけるコーディネーターをコーディネートする役割が求められつつある、とご教授いただきました。

後半は6名程度で班を作り、グループ討議を行いました。その時の受講者の意見として、『これからの公民館職員はコーディネーターを育成する役割も求められると思うが、職員の異動が激しく、それを実行できるまでの十分な人間関係や信頼を構築できない。』『一般職などで公民館に来たばかりの職員には何も分からない。何もできないなりに頑張るとい程度に構えていた方がいいのか・・・？』といった意見が出され、はたして実際に地域に根付くことができるのかという不安の表れが見えました。

今回の研修により、公民館の仕事の重要性や範囲の広さ、そして実際に置かれている状況などを再認識し、これからの公民館、そして公民館職員のあるべき姿について考える良い機会になったものと感じました。



# 公民館スタッフのつづやきコーナー

館  
長

## みなさんの「ひろば」となるように…

船橋市海老が作公民館 館長 吉野 英子 さん



この4月に、新任の館長として船橋市海老が作公民館に配属となりました。

公民館には、平成4年から6年間勤務していた経験がありますが、その後は健康部や福祉部などの仕事に携わり、12年ぶりに公民館に戻って参りました。

私を迎えてくれたのは、当時と少しも変わらずいきいきと活動されている地域の方々の笑顔でした。館長としての重責を感じながらも、またたくさんのすばらしい出会いがあることに、わくわくしながらの日々です。

職員の体制は常勤職員が減り、その代わりに社会教育主事資格を持つ事業担当者を含めた非常勤職員が配置されています。また、市民協働も進み、生涯学習コーディネーターが企画運営にかかわる事業は、市民ニーズに即した質の高いものがあり、公民館事業がより充実してきたことを感じます。

最近の傾向として、一般的には地縁的な関係が希薄になってきていると言われていますが、私の勤務する海老が作公民館の管区内の町会・自治会連

合会や地区社会福祉協議会の活躍は著しいものがあり、

学校ボランティアや総合型地域スポーツクラブの組織的な活動が盛んで、公民館事業とも大きくかかわっています。

地域は今、公民館に何を求めているのか…まずは研鑽の日々ですが、たくさんの先輩やお世話になった方々の声が、あちらこちらから聞こえてきそうです。

館長となり、再び生涯学習の現場で働くことになったことを、かつての公民館時代の上司に報告しようと思っていた矢先に、その方が亡くなられました。私をはじめ、その上司と関わった他の職員にとっても公民館の原点そのもののような方でした。

最後に、その上司の言葉をお借りして…「地上にはもともと道が無い、歩く人が多ければそれが道になる。」(魯迅)

多くの人々が集まり、語り合い、やがて広い道が広場となるように、公民館が地域のみなさんの「ひろば」となるように…



## 「公民館まつり」を今年も笑顔でいっぱい

職

員

四街道市立四街道公民館 木島 操 さん

平成20年4月から四街道公民館に勤務しています。写真に写っている門の「煉瓦」は、大正中期に軍事施設が建てられた名残です。四街道駅から徒歩7～8分程で、近くに高校もあり、緑が多く静かな場所にあります。四街道市には四街道・千代田・旭公民館と3館ありますが、いずれも緑の多い自然豊かな場所に設置されています。

基本的に各公民館主催で、就学前親子から高齢者の方を対象とした事業を開催していますが、少子高齢化の波を受け、青少年の参加が減少しています。家庭や学校とは異なる社会教育の場として、今後の公民館の役割について考えることはもちろんですが、青少年にとって魅力ある事業を企画し、足を運んでもらうことが大きな課題だと考えます。

その課題の答えの1つになると思われる「公民

館まつり」の準備が始まりました。公民館ごとに時期をずらしての開催で、休館日を利用し、準備・後片付けに走ります。この公民館まつりの集中する期間が最も忙しい時期ですが、日頃利用されているサークルの皆様と一緒に創る事業ですのでも勉強になります。

普段の接客では聞くことのない話から事業のヒントを得たり、公民館に求められているものが何かなどを知ることができる貴重な期間です。

それぞれ3日間の公民館まつりの開催日には、ボーイ・ガールスカウト等の団体による模擬店もあり、年代を問わず多くの来館者で賑わいます。たくさんの笑顔に囲まれ、公民館職員であることに感謝する楽しいひとときです。

# まちより むらより、

## 「親子で農業体験！ 親子米づくり教室」

君津市八重原公民館 ☎0439-55-1840



「お米のありがたみをあらためて感じました。」  
ズボンの裾をまくって汗だくになりながらノビエを取るお母さんがこぼした一言でした。

日本人の主食であるお米。飽食時代の現代だからこそ、親子で一緒に米づくりを体験する「親子米づくり教室」。苗植えや稲刈り体験だけでなく、班ごとに定期的に畦の草刈や、田んぼの草取りを行ったり、君津の特産品である大豆「小糸在来」の栽培も行ったりして農業体験としての色が強いのが特徴です。

もともと、休耕田であった田んぼを借りて、八重原地区の青少年相談員と協力しながら平成17年度から3年間継続していましたが、諸般の事情によりその後

2年間田んぼを休ませていました。参加者や青少年相談員からの強い要望を受けて、今年度は親子米づくり教室の復活・再出発の年となりました。

耕作放棄は、八重原の農村地域（三直）でも農家の後継者不足から地域の課題となっている現象であり、公民館でも休耕田復活に向けた取り組みを行うこととなりました。

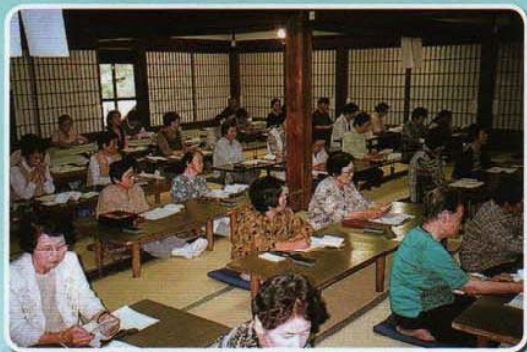
苗植え後に除草剤をまいた水が田んぼの一部から地下に染み込んでしまい、再度水を入れたところ今度は雑草（ノビエ）が大繁殖するなど毎回トラブル続きです。しかしこれも1つの教材として、職員だけで対処せず、参加者全員に草取り作業をしてもらい、農業の大変さを味わってもらうことにしました。

奇しくも一部無農薬栽培となった米づくりに携わり、店頭に並んだ無農薬のお米のありがたみを、身をもって感じたのが冒頭の言葉となって出たのでしょうか。

農業体験と食育のねらいをもったこの教室は、親子の絆や、地域の仲間づくり、新旧住民の交流といった効果も十分に期待できる取り組みとして位置づいています。

## 「般若心経をお寺で学ぶ」生き甲斐学級

芝山町中央公民館 ☎0479-77-0066



公民館講座は各種ありますが、今回は生き甲斐学級についてお話いたします。

生き甲斐学級は町内に在住する60歳以上の男女を対象として募集します。

本教室は、高齢者が社会環境の変化に順応する能力を再開発し、多くの仲間と交流を図り、社会活動へ参加し充実した生活を送ることを目的としております。

学級の内容は、5月に開講し学級役員を選出を行い月1回の開講で手芸、講演会、学習会、運動会、

お楽しみ演芸会、県内外への研修等です。

昨年度は84名、本年は80名の学級生ですが、近年男性の参加者がなくなり、女性のみですので講座の内容が女性用に片寄りがちになります。男性の参加者を望むところですが農村では老年になっても家庭での仕事は限りなくあり、講座参加等の気持ちの余裕がないのかもしれませんが。

本年は6月の講座で「般若心経」の写経（しばやまにおうそんかんのんきょうじ）の写経（しばやまにおうそんかんのんきょうじ）の心得等々講義をしていただき写経に入りました。墨をすって毛筆で書くのが本来の様式ですが、今回は特別に許しをいただき、毛筆、筆ペン、ボールペン、鉛筆とそれぞれが書きやすい道具を使う事としました。262文字を2時間以上かけて真剣に写経し静かな雰囲気の中で有意義な時を過ごしました。

学級生は、お互い協力し合って自主的に進めております。

これからも学級の目的達成のため、新しい講座も加えていきたいと思っております。

# 持ちより公民館だより

## 親子で一緒に地域再発見「たてやまワクワク探検隊」

館山市中央公民館 ☎0470-23-3111



今回のテーマは「海」。今日は早起きして、定置網漁を体験、獲れた魚を料理して朝から豪華にお刺身定食。集合時間は午前4時30分。参加者は大人も子どもも眠い目を擦りながら、朝焼けに照らされた定置網船の出港する港に集まってきます。

親子一緒にいろいろなことを体験しながら、自分たちの住む地域のことを再発見することを目的に開催している「たてやまワクワク探検隊」の1シーンです。

今年の探検隊は、「海」・「キャンプ」・「登山（ハイキング）」の3シリーズ。各テーマは2つのメニューから構成され、海シリーズは「神秘のマリンブルー！ウミホ

タル観覧会（7月開催）」と「今日は早起き漁師ごはん！観光定置網漁体験（8月開催）」。参加者はシリーズごとに募集しています。

「パパママ子育て塾」という名で始まったこの事業も10年余りが経過し、当初は年間を通じて開催していましたが、最近子どもも忙しく、参加者も安定しないため、現在の選択型になりました。参加しやすくなったことからか、最近はお父さんも一緒に参加する家族や移住してきた方の参加も増えています。

この事業をはじめ、公民館で開催する様々な講座を通して地域のことを見てみると歴史、文化、人々の生活など、自分たちが昔から住んでいる地域には知らないこと、見たこともない場所がまだまだ多くあることに気がつきます。子どもはもちろん、子育てをしている親世代や私たち職員も地域のことを意外と知らないものです。

家族、参加者、講師になる地域のおじさん、おばさんが楽しく交流する機会として、また、ワクワクしながら地域のことを楽しく学び、郷土を愛する心を育む機会となるような事業になればと考えています。ただ屋外の事業は天気心配。今日も天気予報にとらめっこです。

## ～自分の特技・技術を地域に還元～ 「いすみ市立いきいき塾」

いすみ市岬公民館 ☎0470-87-6111



「いすみ市立いきいき塾」は、平成16年4月に設立した「岬町立いきいき塾」が前身となり、今年で7年目を迎えます。

塾の内容は、「健康づくり講座」、「教養講座」、「健康・福祉講座」と3つの講座にわかれており、「健康づくり講座」は、健康音楽（カラオケ）、手話ダンス、舞踊、麻雀、「教養講座」は、陶芸、書道、絵画、茶道、詩吟、「健康・福祉講座」は軽スポーツ、健康に関する講演会、福祉施設の訪問等を開催しています。

受講者は年々増え、平成22年度は、全体で159名の申込みがありました。特に健康音楽や絵画、書道は、

受付開始後すぐに定員となるほどの盛況です。

いきいき塾の特徴は、特別に講師をお願いして講座を開催するのではなく、各文化団体が活躍している方々が自分の持っている特技、技術を提供し活動している点です。

受講者の皆さんは、日頃の成果を春の芸能芸術祭と秋の文化祭に披露するために、熱心に講座に取り組んでいます。

中でも陶芸は熱心で、講座で基礎を学び、その後に文化団体へ加入し腕を磨く方も多く、今では、素人離れた作品を作りあげる人もいるほどです。また、最近では少なくなった親子一緒に体験できる物づくりの場を提供しようと、毎年夏休みに開催している人気企画である親子（家族）陶芸教室では、毎年、多くの陶芸の会員に協力をいただいているところです。準備は大変ですが、完成した時の子供達の笑顔に、私たちは毎回、「やって良かった」とパワーをもらっています。

今後とも、いきいき塾を巣立った皆さんをはじめ公民館を支えてくださる多くの方々に感謝をしつつ、地域ぐるみで公民館を盛り立てて行きたいと思えます。



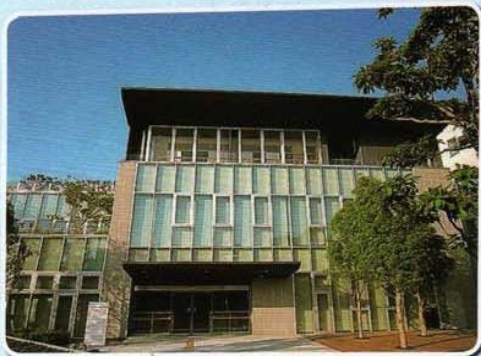
S

T

A

F

F



シリーズ・県内の

# 元気館

～地域の生涯学習の拠点～

地域交流プラザ

## e!sure 高洲 (浦安市)

エスレ

TEL 047-304-0313

エスレ高洲のエスレは、公民館複合施設のキーワードである、交流・学習・憩いを表す英単語の頭文字をとったものです。エクスチェンジ（交流）の“E”、スタディ（学習）の“SU”、レスト（憩い）の“RE”をとって“ESURE（エスレ）”となりました。また、「e!sure」（エスレ）は「環境に優しい施設 eco（エコ）はsure（もちろん）！」という意味もあります。

構造並びに階数は、鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造、地下1階地上2階、一部3階建て、敷地面積が4408.08平方メートル、延床面積が7191.77平方メートルです。

この施設は「周囲と一体となった公共ひろば」、「利用者・景観へ配慮した低層の建物」、「地上、屋上の良好な環境と市民への開放」、「周囲との関係による緑の立体配置」、をコンセプトとした地下1階、地上3階の複合施設です。交流空間を中心に部屋を配置し、高洲小学校や高洲中央公園との一体的な景観を意識し、前庭やテラス、屋上などに緑を配置しています。

主要室については、公民館では、クライミングウォール、音楽室、陶芸室、工芸工作室、運動室、大集会室、調理実習室、会議室1～4、研修室、多目的室、保育室、和室、学習室です。また、複合施設ですので、図書館分館、児童センター、支部社会福祉協議会、移動防犯ステーションや軽食を楽しんでいただくカフェも配置されています。

また、環境に配慮した設備等として、太陽光発電設備、雨水利用設備、屋上緑化を設置しています。これらは省資源・省エネルギー対策に寄与するとともに、太陽光発電量などを表示するモニターを1階事務室前

に設置するなど、日常的に市民の目に触れていただけるようにしています。

7月3日・4日に行われた内覧会&オープニングイベントでは、9,408名もの市民の方が来館されました。イベントは、地域自治会の模擬店、地域小中学校生徒による吹奏楽及び合唱コンサートなど地域からの協力もいただきました。また、千葉県指定無形文化財であるお酒楽踊り、クライミング体験など盛りだくさんで、来館された方も楽しんでいました。



広い吹き抜けがあります



たくさんの市民の方がきてくれました



クライミングウォール



地域小学生による吹奏楽

### あしがき

平成22年度から前任者の後を引き継ぎ、広報委員会の委員になり早、半年が過ぎました。広報については何もわからないので、ご指導のもと頑張りたいと思います。

さて、朝・夕冷え込んできました。秋になると食べ物美味しくついつい食べ過ぎてしまいます。美味しく食べられることは健康の証ですが、次に待っているのがお腹の脂肪です。お腹が気になる私にとっては、ふつつつと湧いてくる食欲との戦いの季節でもあります。

昨年夏ごろから流行した新型インフルエンザも今年は落ち着いています。これから冬になりますが、会員の皆様も風邪やインフルエンザに気をつけて下さい。(白井)

### ちばけん公民館スタッフニュース

編集：千葉県公民館連絡協議会 広報委員

委員長：野田 政実(千葉市草野公民館)

編集者：岩田 和久(富津市中央公民館)

発行：千葉県公民館連絡協議会

印刷：株式会社 豊文堂



N

E

W

S

!

